

小学2年・国語、オンライン学習 「たのしかったよ、二年生」

アラブ首長国連邦・アブダビ日本人学校

1 前提

学校環境

在籍児童生徒数 小学部 64 名 (21 名)、中学部 12 名 (7 名)、幼稚園 34 名 (11 名)

※()内は、UAE 児童生徒・園児の人数

2020 年 4 月からの授業は、UAE (アブダビ) の COVID-19 の状況を考慮し、オンライン授業体制を構築し、Microsoft Teams を利用した遠隔授業を実施してきた。1 学期は児童生徒はオンライン授業、教師は 3 名まで出勤し、あとはリモートワークでオンライン授業をした。2 学期は、1 年生から 5 年生までの児童が隔週分散登校、それ以外の学年の児童生徒はオンライン授業を実施した。3 学期に入ってからも、引き続きコロナ禍の状況が改善せず、全学年オンライン授業が続いた。

学校保有の PC 端末は、画面サイズや機能、性能に限界があり、児童生徒理解、観察が難しく、教育効果を上げるためには教師に過大な負担を強いる課題が生じていた。急な全校オンライン授業だったため Wi-Fi 環境に課題がありパソコンがフリーズすることもあった。予算に計上した Wi-Fi エクステンダーを全教室に設置することで Wi-Fi 環境が整った。

課題と目標

オンライン授業で児童生徒へ授業を動画配信する際に電子黒板を用いることで必要な個所を拡大、画面への書き込み、編集等がスムーズに行える機能を利用し、視覚的にわかりやすい授業を展開したい。

また、登校時の授業やオンライン授業で、在宅の児童生徒と登校をしている児童生徒を繋ぐ役目も果たせるようにしたい。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

- » 電子黒板 (ウェビングマップ……思い付いたアイデアを次々と記載していき、そのアイデアをつなげていく思考の整理に役立つ)
- » PC

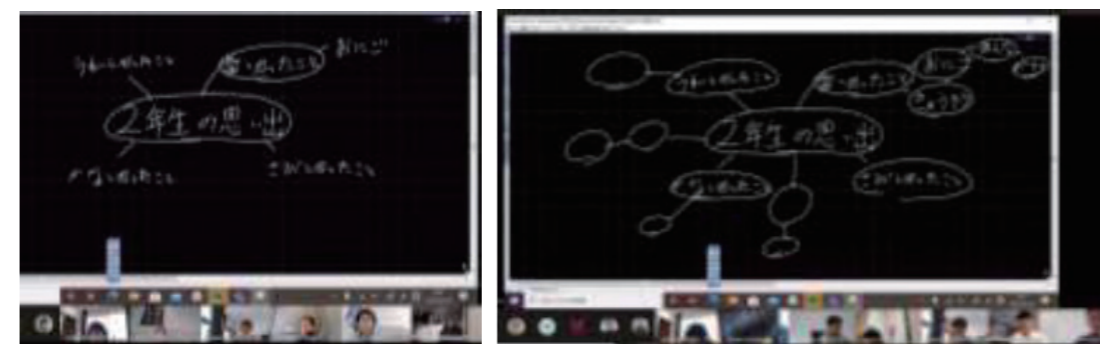
具体的な活用方法

<授業の狙い>

- » ウェビングマップを使って、作文を書くためのキーワードをたくさん書き出すことができる。
- » 二年生を振り返って、思い出す言葉を気持ちと関連づけることができる。

<授業の流れ>

- ① 作文についての説明及びウェビングマップの説明
 - » 初めてのウェビングマップだが、説明と並行して作られる過程が電子黒板に映されていたので、児童は一度の説明で理解できていた。
- ② ウェビングマップ作成
 - » 質問が連発することなく、児童それぞれが集中して作成に取り組んでいた。難しいと感じている児童も、授業者の見本を写しながら、自分の言葉を書き加えることができていた。
- ③ まとめ、今後の流れ



電子黒板活用場面の写真

3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

- » 低学年の児童に対して初めての取り組みを行うのはハードルが高かったが、電子黒板を用いて具体的に見せることができるため実践することができてよかった。
- » 子どもたちが作文を作成する準備として、画面上で簡単に考えをまとめることができた。

児童生徒、教師、保護者の反応

<教師>

- » オンライン授業であっても、電子黒板の活用によって児童たちの理解度とモチベーションは上がっている。初めての事や難しい事に対しても、不安よりもまずは話を聞こうという前向きな気持ちで、画面を食い入るように見る熱心な姿が見られる。
- » 説明の序盤に「わからない」とメッセージを送ってきた児童がいたが、授業後、「その後の説明を聞いてわかったと思う、やってみた」と嬉しそうに話していた。電子黒板によって情報がクリアに伝わるようになり、諦めずに聞く、取り組む姿勢が身についた。